

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成30（2018）年度採択分）
「人文社会データサイエンス研究における国際的若手研究者育成と国際的情報発信の取組」
（課題番号：18HP2006）

学術団体名：日本行動計量学会

学術刊行物の名称：Behaviormetrika

事業期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

現在、データサイエンス研究は、国際的にますます活性化しており、当分野の国際ワークショップを日本で開催して一流の研究者を海外から招き、若手研究者が最前線で活躍する研究者と議論する機会を設ける必要がある。そして、若手研究者が得た成果を国際的学術雑誌によって積極的に発信する必要がある。これらを実現のため、以下の二つを目標とする。

1. 先進的な成果をあげている研究者を招いた国際ワークショップを日本で開催し、若手研究者の発表を促し若手研究者が著名研究者と議論できる機会を多く作り、国際的な若手研究者の育成を図る。
2. 育成された若手研究者が成果を発表できる国際的学術誌を発行し、データサイエンス分野における我が国の研究を海外に発信するとともに、当分野の優れた研究を世界中から集める。また学術誌の国際的な評価を確立するためにインパクトファクターを取得する。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

1. 国際ワークショップを1年に1回開催し、その成果のBehaviormetrikaへの投稿を促進する。
2. Behaviormetrikaにおいて、5年間で以下の数値目標の実現を目指す。
論文投稿数：3年目30本/年、事業完了時60本/年以上、海外からの論文投稿数：3年目50%/年、事業完了時70%/年以上、掲載論文数：3年目25本/年、事業完了時30本/年以上、インパクトファクター：事業完了時1.0以上を取得

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

目標1の達成状況：2018年度に国際シンポジウムを電気通信大学で開催し、2名の著名な研究者（Donald B. Rubin博士、van der Linden博士）を招致して招待講演を実施した。さらに両名に論文をBehaviormetrikaに寄稿していただき、2020年に掲載されている。なお、2019年度にも新たに3名の講演者を招待していたが、コロナ禍で延期となり現在調整中である。

目標2の達成状況：論文投稿数は2年目の時点で「3年目30本/年」を達成しており、3年目も引き続き達成し、かつ2年目より投稿数が増えている状況である。海外からの論文投稿数も70%を超えており、「事業完了時70%/年以上」に到達している。論文掲載数も「3年目25本/年」を達成しており、かつ掲載数も順調に増加していて「事業完了時30本/年」の達成が可能と考えられる。インパクトファクターは、応募時点から基準が変わってしまったため、まだ取得できていない。

・今後の計画

2020年度はBehaviormetrikaにvan der Linden博士を中心としたSpecial Issueとして8件の論文を掲載する。加えてRyan Baker博士によるSpecial Issueに掲載する論文を募集中で、2021年に掲載される見込みである。2021年度以降、数名の研究者による招待講演とSpecial Issueを予定している。また、最終年度に向けて、掲載論文数の増加とともに、インパクトファクター1.0以上の取得を目指す。